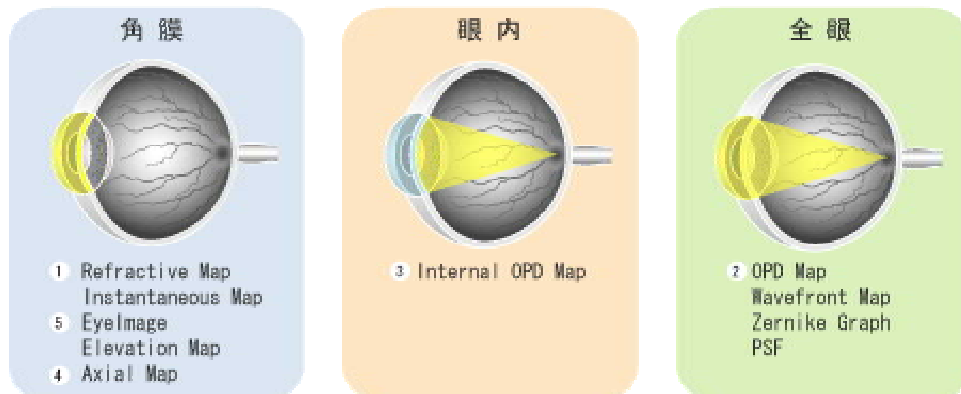


OPD-Scan / ARK-10000 装置展示  
 < 角膜形状/屈折力解析装置 >

(株)ニデック 三浦和昌

本装置は、角膜形状測定と 6mm 領域の広範囲な屈折度数分布（オートレフ）測定という 2 つの異なる機能を備えた新しい屈折検査装置である。これにより角膜乱視に加えて、眼の光学系全体を反映した不正乱視の解析（波面収差解析）や眼内の屈折状態を表現することが可能となった。



Corneal Navigator

各測定結果より、角膜形状ナビゲーションソフトウェア(Corneal Navigator)は、スクリーニング判定に参考となる係数（角膜形状の特徴を表す各種インデックス）を計算し、ニューラル・ネットワークにインプットすることで、8 種類の角膜症状に分類することが出来る。

8 種の症例で分類（図 1： ）

< 症例の分類 >

- NRM: 正常眼
- AST: 乱視眼
- KCS: 円錐角膜疑い
- KC: 円錐角膜
- PMD: 角膜変性症
- PKP: 角膜移植眼
- MRS: 近視矯正手術眼
- HRS: 遠視矯正手術眼
- OHT: その他



(図 1)

評価分類 (図1: )

角膜インデックスは、“ Abnormal ”, “ Suspect ”, “ Normal ”別にカラーで表示されます。インデックスを選択すると、その閾値を確認することができます。

評価コメント (図1: )

インデックスで分類されたコメントを表記します。

### 設計コンセプト

#### オールインワンのコンパクト設計

本装置はCPUを内蔵し、パソコンを外部接続する必要が無く、測定から解析まで1台で行うことが出来る。それにより接続の手間、設置場所を大幅に節約することが出来る。

#### 操作性の追求

タッチパネル&グラフィカルなアイコン表示を採用し、使いやすさを追究。本装置はタッチパネルで操作することが可能で、操作ボタンも分かりやすいグラフィカルなアイコンとすることで直感的な操作を可能にした。

#### 被検者補助性の向上

額あての改良により、被検者の眼を容易に開瞼させ測定することが可能になる。

#### 解析処理スピードの改善

搭載するCPUを566MHz 1.5GHzに変更したことにより、マップ表示スピードが前機種種の6倍となる。それに伴い、複数のデータを表示、選択することが可能となり操作性も向上した。

#### Network対応

ネットワーク接続を可能にすることで、データの共有を実現させた。直接本装置に接続せずにデータを閲覧。または、サーバーへのデータバックアップが可能となる。

販売名 角膜形状/屈折力解析装置 ARK-10000

機器分類 一般医療機器

届出番号 23B1X00023000020